



勝負は一年に一度だけ 菊づくりに懸けて30年

浦田 清一さん（太美南）



当別町長賞作品
大輪三本仕立

たくさんの手間と思いを込め菊づくりを続けている浦田さん。当別町文化祭を彩る菊花展で2年連続当別町長賞を受賞、札幌地下街で開催される「さっぽろ菊まつり」では文部科学大臣賞に輝きました。

我流ではじめた菊づくりが 北海道のトップレベルに

約30年前に伯父から鉢を譲り受けたことが菊づくりのきっかけでした。最初は我流で作っていましたが、国鉄勤務時代の先輩に本格的に指導して頂き、だんだんと菊作りの奥深さに取り付かれて行きました。

当別町菊花同好会や昔住んでいた札幌市の札幌東菊花同好会の仲間と活動を続け、次第に大きな展示会でも賞を頂けるようになりました。

日頃の努力の結晶が 一年に一度咲く花になる

一口に菊と言っても色、種類などは様々です。年間約150鉢を作るの

で、時間があれば一日中世話をしています。展示会が行なわれる11月上旬に向けて、一年前の夏から準備を始めます。「菊作りは土作り」という言葉もあるくらい、肥料づくりや苗の世話など、見えない仕事がとても大切なのですよ。

永い間続けていると、理屈で解っていても、思い通りに行かないことも多いですね。失敗も数多くありました。少しでも大きな花に育てたい思いから、肥料を多く使い過ぎて花をダメにしてしまったこと、寒さで一度に20鉢以上がしおれたこともありましたね。

生き物が相手なので、毎日手をかけなければいけません。体調を崩したときに、水やりなどで妻が協力してくれたこともありました。

手塩にかけて育てた菊が、立派な花を咲かせたときの感動が菊づくりの一番の魅力です。

継続して行きたい 人の心に響く菊づくり

なかなか満足できる作品はできないですが、これからも菊を作り続けて行くつもりです。

賞を頂くことは励みになるので、展示会への出品に向けた菊づくりをしています。多くの人に花を楽しんでいただけるようにと、老人施設での展示活動も続けています。

私が始めた頃と比べると、だんだん仲間の数が減って来ているので、今後は、共に活動する仲間を増やして行ければ良いと思いますね。

人の動き 11月1日現在 ()は前月との比較

人口	19,711 人	(7人減)
世帯	7,813 世帯	(23世帯減)
男	9,636 人	(2人増)
女	10,075 人	(9人減)



今月の表紙

西当別コミセンに飾られたクリスマスツリーを前にワンショット。大きなツリーを見上げ、「サンタさんだー！」と目を輝かせているふとみ保育所チューリップ組の児童たち。もうすぐクリスマスですね。あなたの所にもサンタクロースはきっとやってきます。